



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月14日

上場会社名 株式会社フェニックスバイオ 上場取引所 東
 コード番号 6190 URL https://phoenixbio.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 島田 卓
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部長 (氏名) 田村 康弘 TEL 082 (431) 0016
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	1,135	78.0	367	—	403	—	356	—
2022年3月期第2四半期	637	—	△133	—	△128	—	△130	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 389百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 △103百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	107.65	71.56
2022年3月期第2四半期	△39.59	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しているため、2022年3月期第2四半期の各数値は、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	2,676	1,232	45.8
2022年3月期	2,280	828	36.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 1,224百万円 2022年3月期 823百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,751	32.2	206	—	211	—	198	—	60.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）、除外 ー社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	3,326,812株	2022年3月期	3,307,112株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	45株	2022年3月期	45株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	3,315,679株	2022年3月期2Q	3,296,842株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10
4. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化が進むものの、ウクライナ情勢の長期化や急速な円安の進行等に伴う物価上昇など、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループの顧客が属する医薬品業界では、世界人口の増加と新興国の所得水準の向上を背景として市場は成長しておりますが、特許切れによる後発薬の台頭、新薬開発の長期化等により製薬企業の収益性は厳しさを増しております。一方で、潤沢な資金を持つ大手製薬企業は、新たな収益源を求めて有望なパイプラインには積極的に投資する等、M&Aによる業界再編が進んでおります。このような状況を背景に、製薬企業では新薬開発を迅速かつ効率的に実施するために、臨床試験等の開発業務を外部のCRO（開発業務受託機関）へ委託するケースが増えております。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によるテレワークの広がりによって、製薬企業の外部委託は一層増加しております。

このような状況のもと、当社グループでは感染予防策を講じながら営業及び生産活動を行っており、世界の大手製薬企業が研究開発拠点を置く米国を中心に、マウスの肝臓の70%以上がヒトの肝細胞に置き換えられたヒト肝細胞キメラマウス（当社製品名：PXBマウス）を用いた受託試験サービスを提供しております。

当社グループの主要顧客である製薬企業や研究機関におけるPXBマウスの需要は海外市場を中心に堅調に推移しており、薬効薬理分野、安全性等分野ともに多くの引き合いを頂いております。受注高は複数の大型案件を獲得した前年同期からは減少したものの、受注残高は引き続き高い水準で推移しております。売上高は海外市場の抗B型肝炎薬の受託試験やマウス販売が大きく伸びたため、前年同期を大幅に上回りました。費用面につきましては、売上原価は受託試験における外注費の減少や前期において海外生産施設の減損損失を計上したことによる減価償却費の減少等により前年同期を下回りました。また、販売費及び一般管理費は海外子会社で人件費が増加したことなどにより前年同期から増加しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,135,180千円（前年同期比78.0%増）、営業利益は367,206千円（前年同期は営業損失133,200千円）、経常利益は403,389千円（前年同期は経常損失128,788千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は356,929千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失130,533千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,242,261千円となり、前連結会計年度末に比べ388,013千円増加いたしました。これは主に売掛金及び契約資産が207,255千円、現金及び預金が78,197千円、その他が58,204千円、それぞれ増加したことによるものです。また固定資産は434,277千円となり、前連結会計年度末に比べ8,057千円増加いたしました。これは主に米国子会社において「リース (Topic842)」の適用に伴い、使用権資産が9,286千円増加したことによるものです。この結果、資産合計は2,676,539千円となり、前連結会計年度末に比べ396,071千円増加となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は429,991千円となり、前連結会計年度末に比べ8,777千円減少いたしました。これは主に未払法人税等が45,194千円増加した一方で、前受金が59,830千円減少したことによるものです。また固定負債は1,013,877千円となり、前連結会計年度末に比べ330千円増加いたしました。この結果、負債合計は1,443,868千円となり、前連結会計年度末に比べ8,446千円減少となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,232,670千円となり、前連結会計年度末に比べ404,518千円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が356,929千円、為替換算調整勘定が32,387千円、それぞれ増加したことによるものです。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ78,197千円増加し、1,403,704千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、獲得した資金は38,681千円（前年同期は10,706千円の使用）となりました。これは主に売上債権及び契約資産の増加207,255千円、前受金の減少59,830千円、棚卸資産の増加41,613千円があった一方で、税金等調整前四半期純利益403,383千円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は2,802千円（前年同期は5,203千円）となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出1,848千円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は29,081千円（前年同期は19,064千円）となりました。これはリース債務の返済による支出であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月13日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、2023年3月期は一定程度継続すると仮定しておりますが、大規模な企業活動の制限については想定しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,325,507	1,403,704
売掛金及び契約資産	226,262	433,518
製品	59,017	75,350
仕掛品	84,317	102,306
原材料及び貯蔵品	114,858	124,894
その他	44,283	102,487
流動資産合計	1,854,247	2,242,261
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	87,852	81,210
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	11,334	11,002
土地	296,000	296,000
リース資産(純額)	14,528	15,626
使用権資産(純額)	—	9,286
有形固定資産合計	409,714	413,125
無形固定資産	1,513	2,675
投資その他の資産	14,991	18,476
固定資産合計	426,219	434,277
資産合計	2,280,467	2,676,539
負債の部		
流動負債		
買掛金	37,256	27,737
未払法人税等	12,695	57,890
前受金	247,570	187,739
賞与引当金	—	5,068
その他	141,245	151,554
流動負債合計	438,768	429,991
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	900,000	900,000
資産除去債務	3,272	3,306
その他	110,274	110,570
固定負債合計	1,013,547	1,013,877
負債合計	1,452,315	1,443,868

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,363,956	2,369,797
資本剰余金	583,866	589,707
利益剰余金	△2,103,761	△1,746,832
自己株式	△40	△40
株主資本合計	844,020	1,212,631
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△20,404	11,983
その他の包括利益累計額合計	△20,404	11,983
新株予約権	4,535	8,055
純資産合計	828,151	1,232,670
負債純資産合計	2,280,467	2,676,539

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	637,912	1,135,180
売上原価	347,957	263,229
売上総利益	289,955	871,950
販売費及び一般管理費	423,155	504,744
営業利益又は営業損失(△)	△133,200	367,206
営業外収益		
受取利息	97	326
為替差益	2,423	36,683
補助金収入	132	—
受取保険金	110	—
その他	2,204	1,409
営業外収益合計	4,968	38,418
営業外費用		
支払利息	450	2,120
株式交付費	106	116
営業外費用合計	557	2,236
経常利益又は経常損失(△)	△128,788	403,389
特別損失		
固定資産除却損	9	5
特別損失合計	9	5
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△128,798	403,383
法人税、住民税及び事業税	1,225	46,612
法人税等調整額	509	△157
法人税等合計	1,734	46,454
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△130,533	356,929
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△130,533	356,929

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△130,533	356,929
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	26,614	32,387
その他の包括利益合計	26,614	32,387
四半期包括利益	△103,918	389,316
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△103,918	389,316

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△128,798	403,383
減価償却費	42,341	11,301
株式報酬費用	6,166	9,355
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	4,696
受取利息	△97	△326
支払利息	450	2,120
為替差損益(△は益)	△1,618	△27,991
補助金収入	△132	—
受取保険金	△110	—
有形固定資産除却損	9	5
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	△32,297	△207,255
棚卸資産の増減額(△は増加)	△13,574	△41,613
仕入債務の増減額(△は減少)	7,863	△10,030
未払金の増減額(△は減少)	△5,174	△10,182
前受金の増減額(△は減少)	124,674	△59,830
その他	△9,547	△35,668
小計	△9,844	37,964
利息及び配当金の受取額	97	326
利息の支払額	△453	△2,120
補助金の受取額	2,465	6,691
保険金の受取額	110	—
法人税等の支払額	△3,085	△4,183
法人税等の還付額	2	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	△10,706	38,681
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,058	△1,007
無形固定資産の取得による支出	—	△1,848
その他	△145	53
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,203	△2,802
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△2,481	—
リース債務の返済による支出	△14,855	△29,081
割賦債務の返済による支出	△1,728	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,064	△29,081
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,184	71,399
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△28,790	78,197
現金及び現金同等物の期首残高	1,327,813	1,325,507
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,299,022	1,403,704

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

米国会計基準を採用している一部の在外子会社は、第1四半期連結会計期間より「リース (Topic842)」を適用しております。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結貸借対照表において使用権資産が9,286千円、流動負債のその他が10,364千円、それぞれ増加しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第2四半期連結累計期間において営業利益を計上したものの、前連結会計年度までは継続して営業損失を計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況の解消を図るべく、当社グループでは北米を中心とした海外市場での事業拡大と生産体制の確立に努め、収益の改善に取り組んでまいります。海外売上高については、新型コロナウイルス感染症の影響による顧客の研究開発活動の停滞から一時的な落ち込みはあったものの、前連結会計年度から回復傾向にあり受注環境は堅調であります。今後さらに売上を伸ばすため、コンソーシアム活動やCROとの業務提携により新規顧客開拓やPXBマウス、PXB-cellsの用途拡大を進めてまいります。同時に従来受託試験サービスからPXBマウス販売へのシフトを進めることで、経営資源をマウス生産に集中し、収益基盤の安定化を目指してまいります。そのための体制として、海外生産拠点であるKMT Hepatech, Inc. 社において設備投資を行い、PXBマウスの供給能力を強化しております。今後は同社でのPXBマウス生産の安定化を目指すとともに、効率化によるコストの低減に取り組んでまいります。

資金面につきましては、当第2四半期連結会計期間末日において、1,403,704千円の現金及び預金を保有しており、資金繰りを考慮した結果、当面の事業資金を確保していることから当社グループの資金繰りに重要な懸念はありません。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、四半期連結財務諸表への注記は記載しておりません。

4. 補足情報

(1) サービス別売上高

		前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
薬効薬理分野	国内	38,883	6.1	9,726	0.9
	海外	209,342	32.8	558,866	49.2
安全性等分野	国内	69,513	10.9	82,128	7.2
	海外	320,172	50.2	484,458	42.7
合計		637,912	100.0	1,135,180	100.0

(2) サービス別受注高

		前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
		受注高(千円)	受注残高(千円)	受注高(千円)	受注残高(千円)
薬効薬理分野	国内	111,761	81,274	35,926	28,750
	海外	398,090	486,037	263,884	583,421
安全性等分野	国内	94,442	24,983	86,639	13,849
	海外	329,797	143,848	274,926	287,872
合計		934,091	736,143	661,376	913,893

(注) 当社グループは「PXBマウス事業」の単一セグメントではありますが、事業の傾向を示すためサービス別の売上高及び受注高を記載しております。